
しんらいのうた

novel er

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

しんらいのうた

【Nコード】

N3983A

【作者名】

noveler

【あらすじ】

「信頼」をテーマに書いてみた「詩」です。始めは小説的に書くうと思いましたが書いてるうちに詩みたいになってしまいました…
(泣) 呼んでくれると嬉しいデス感想とかできればください

ふと思う、人はなぜ……………

今日も独り、明日も独り。明後日も明々後日も…それから先も…死ぬまで…いや死んでも独りかも…アハハ…考えると笑えるね…

昼休み、騒がしい、日差し暑い。
無表情で静かな僕とグループ毎に騒ぐ奴等の共通の仕草は、弁当を食べることだけだろう。

寂しくない。といえはウソになる。でも…

僕は正直、人を信用できないタイプの人間。
世間一般的に言う『人見知り』。その重度Ver. 自分はそんな感じ。

自分でもわかる。わかっている。

ただ僕は精神的なものや脳障害とかがある訳じゃない。

唯々、僕は、人を信用できない。そんだけの人間…小さい器の人間。わかってる。わかっているんだ…

ふと思う、

『なぜ、人を、他人を信用出来るんだろう』
『もしかしたら…自分はただ単に利用されてるだけ…と疑わないの

だろうか』

『例えば、裏切られて、捨てられて、疎外されて、傷つけられて、それでもなお人を、他人を信じられるのか…』

いや…：そうだ…：根本から思うのは

『ナゼ、アナタタチハ信頼スルノガ怖クナイノカ…』

ハハッ、哲学者でもないのに何考えてんだろうね…消してしまおう、サヨナラ、僕の記憶の片鱗…また会うだろうけど…：…

僕が人を信じられない理由…：なぜか…：

昔、イジメられてたわけでも無く（シカトはされてるが…）、信じてた人に裏切られた訳でも無い。

ふと気がつくと僕は人が信じられなくなっていた。なぜだろう…

昔は友達と呼べる奴もいた…：でも消えた…：僕が悪い。わかってる。

わかってるんだ…：年々酷くなり疑心暗鬼し続ける僕のココロ…：まるで他人事だ…：こんなんだ

から僕は…

今僕は教室の隅で一人、一人窓際にフワッと座っている僕がいる。

僕みたいな奴はまるでホコリだ。

存在し確認も出来る。けどわからない。

自らの地位や居場所が無い。

故にホコリのように舞い、翔び、消えて、またその場に積もる…：そんな…：僕はホコリだ、ホコリなんだ…：

ふと思う 嗚呼 僕はなぜ人を信じられないのだろう…：なぜ他人は人を信じられるのだろうか…：わからない。いやわからないんじゃない…：思い出したくないんだ…

今より更に弱く、低能な、恥すべき自分を思い出したくないんだ…

きつとそうだ：

：よくわからないね：もうやめよう：疲れるだけだ：頭が痛い：嫌気がさすよ：

信頼：しんらい：シンライ：『信じる』って何？ホコリのボクにはワカラナイ：

弁当を食べ終わり、する事も無く：窓を眺めたりして：時は過ぎる：そんな今、ココロの奥底では独りぼっちはイヤだと泣き叫び転げ回る自分がある。でも僕だってイヤなんだ我慢しろ僕のココロ：それに例え仲間が、友達が：いたって、そいつが：そいつらが：いくら信用、信頼してくれたって僕は信用する事が出来ないよ：結局上辺だけの存在となっちゃう：怨むなら：たった一人の人すら：信用出来ないワガママで恐れている僕を怨み、憎み、あわよくば殺してくれよ。

だから我慢して僕のココロ：泣き叫びたいのは僕も同じだ：か弱き自分、悲劇のヒーローを騙り、気取る自分に：乾杯だ：そして未来の『生涯孤独者…自分』によろしくな『僕』：僕はもう眠いよ：疲れたから：寝かせてくれ僕、でも寝ていたら未来の生涯孤独者に会えないかね：

いや：きつと会えないんだろう、フツツ笑っちゃうな：

まあ：わかってるんだ：今度の眠りは長いから：

自宅の窓から見える夕日：一人ベットの上的僕。

そんな今、ふと思う：今までなぜ生きていたのだろう。何も達成したり、満足して無いけど、もう限界を感じ、何も無い、自らの人生：あるのは疑心暗鬼する僕のココロ：唯それだけ：

誰か助けて：最後に：こんな甘えている：自分を：ふがない自分を助けて。でも：それでも：僕はこんなに必死で助けてくれた奇特

なあなたを信じる事が出来ません…ゴメンナサイ…それが…僕なんだ…ボクなんだよ…

そろそろ時間みたいだ

これからの自らの眠りは…いつ覚めるのかな…

でも…もし次が、次に誰かが起こしてくれるなら…またやり直すチャンスがあるなら僕を人以外にしてくれ、独りで辛く悩むのはもうイヤだ…

今の…僕の…人生はホコリな僕なんかには重過ぎるよ…

結局…『信じる』ってなんだろう…寝る前の最後の疑問…わかる？

まあいいや…眠い…眠いよ…

おやすみなさい…世界でたったひとりノ…ボク…

また会おうだろうけど…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3983a/>

しんらいのうた

2011年1月21日15時09分発行